

2020年(令和2年)

8/15

土曜日



白鷹町産の種から育った紅花を収穫する水戸市稲荷一小的児童 (同校提供)

紅花

県産の紅花が先月中旬、遠く離れた水戸市の小学校7校で咲き誇った。尾花沢市で「上の畑焼」に取り組む陶芸家・伊藤瓢堂さんが各校で作陶などを指導している縁で、児童や教職員の心を和ませようと、生産量日本一を誇る白鷹町産の種を贈った。学校関係者は「山形に思いをはせることができた」と感謝している。伊藤さんは2001年こ

陶芸家 伊藤さん(尾花)贈った白鷹産

水戸で咲き誇る

ろから水戸市で「水戸藩蒸」の復興を手掛け、同市の「水戸大使」も務めている。こうした縁で同市の浜田、渡里、五軒、常盤、城東、稲荷一、上大野の7小学校で陶芸と茶道を指導している。伊藤さんは昨年、各校に初めて紅花の種を贈った。今年には新型コロナウイルス感染症の影響で、陶芸などの教室が中止となったことを受け「現地には行けないが、つながりを保ちたい」と再びプレゼントすることになり、知人の白鷹町民を通じて種を入手した。常磐小では教職員が4月に種をまき、プランターや鉢植えて栽培。花は乾燥させて保存し、板橋幸子校長は「紅染めの体験などできれば」と期待する。稲荷一小では6年生が花壇で雑草取りや収穫を体験。小林文雄校長は「紅花は茨城ではなじみが薄いですが、栽培を通じて児童は山形に関心を持ったようだ」と語った。伊藤さんは「コロナ対応で大変な中、見た人の心が和んでくれたならうれしい。現地との交流を今後も深めたい」と話している。(五十嵐聡)



染色に使う「紅餅」などの品質を確かめた山形市・あこや会館

紅花、品質は良好

県産紅花の加工品の出荷期を迎え、業者に納品する前の収納検査が25日、山形市のあこや会館で行われた。今年には天候不順の影響で初期の生育が思うように進まず収量は低下したが、品質は良好という。

県紅花生産組合連合会(大内理加会長)に所属する生産者が栽培、加工した紅花を会場に持ち寄った。紅餅や「すり花」、食用に使う「乱花」の計約191kgが集まり、生産者らが色や形を確かめ、1等と2等の2階級に格付けした。

今年の作付面積は8.7畝で昨年と比べ1.6畝増加した一方、新型コロナウイルスの感染拡大に伴う国の緊急事態宣言で十分な労働力が確保できず、生産を縮小、中止する生産者もいたという。コロナ禍で需要も減少傾向にあるが、会場の加工品はどれも高品質で、連合会のメンバーは安心した表情を見せていた。

山形で収納検査 天候、コロナで収量は減